虹

中里の家だより
第 13 号

発行年月日
平成元年3月15日

発　行
社会福祉法人
安房広域福祉会

〒294－02
館山市中里288－1
0470（28）2022

この1年をふり返って

施設2年を経て

施設長　山口　一

平成元年、なにか一つの区切りを迎えたような気がします。中里の家もようやく二年を過ごすことになりますが、大きなトラブルもなく、順調な歩みを続けてきたと思います。これも各方面の絶大なご支援の賜ものと感謝の気持で一杯です。

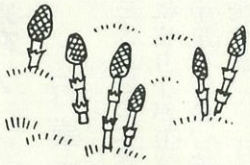
世間並みの施設運営ができたとしても、その中で満足していることは私たちには許されないと思います。より充実した処遇の展開を図らなければなりません。殊に最近のノーマライゼーションの流れの中で、施設の果たす役割あるいは分担をどのように受けとめるのか、現実の処遇展開の中で、これらの理論をどのように具体化していくのか大変難しい問題ではありますが、私たちには避けて通れない大きな課題であると考えております。

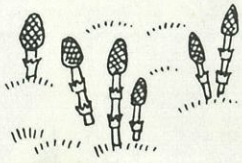
しかし議論は議論として、わが中里の家が、このような時代の流れに逆行するような処遇内容だったとは、私は些かも考えておりません。むしろ、今までの運営方針が正しい方向だったと確かめられたような気持さえ抱いております。

しかしながら掘り下げて部分的に考えてみますと、なお改善しなければならない点もあるようです。すぐに出来る改善は早急に実施し、根本的に改めなければ出来ない部分については、それに近付ける努力を続けなければならないと考えております。抽象的な言い回しとなりましたが、要は個人を尊重した施設運営を図っていきたいということであります。

私は開設以来「中里ファミリー」という言葉を使い、職員には「福祉の心」を強調してきました。それは、一人の人間が縁あって同じ屋根の下に暮らし、助け合い、そして夫々の目的に向って進んでいく姿であり、一方、生活を共にする職員は、使命感を漂わせながら、これらの人達を補助し、指導していく献身的な姿であって、それは親子兄弟の情につながる姿でありましょう。これが「中里ファミリー」であり、「福祉の心」だろうと思うのであります。私はこれからも、この考えを施設運営の基本にしていきたいと思っております。

いま、施設では新しい年度の事業計画を策定している所です。明るく楽しい有意義な生活、より良い処遇の展開を期して作業を進めております。今後ともご支援をお願いいたします。





食事は皆の楽しみ

栄養士　岡本恵津子

私たちの中里の家が開所して、早二年が過ぎようとしています。毎年毎月いろいろな行事や出来事があり、この仕事に〝これでよし〟ということはありません。

当施設では、日常新鮮な食品を使うように特にチェックし、野菜類等は今日市場に出たものを、その日のうちに食卓に載せる様にしておりますので、栄養素も損失している間がありません。又、皆の健康を預かる者の一人として、減塩にも気配りをしています。

この冬は暖かい日が多かったですけど、風邪ひきさんも数名あって、下痢が伴う時には特に気を遣います。この料理を食べて元気になってほしいな、明日は直ってほしいなと。

献立表が出来るのを待ちかねて、「献立表できた？」と言う彼や、「昼は何？晩は何？」と聞いてくる彼女。食堂に入るやいなや「ああ、いゝにおい！」と感嘆の声をあげる彼女らの言葉も、食事は皆の楽しみなんだなと励みになります。

平成元年度も、みんな食事を楽しみにね！

一年間を振り返って

事務員　松田恵理子

昭和六十二年四月から「中里の家」で社会人一年生をスタートさせ、早くも二年が過ぎようとしています。今考えてみると「あっという間の二年だった」そんな感じです。

社会福祉について何も知らず、不安でいっぱいだった一年目……。周囲の人達に迷惑をかけながらも少しずつ仕事を覚え、ここまできました。

今年一年を振り返ってみると、たくさんの行事、いろいろな出来事がありましたが、大過なくすごせたことを幸せに思います。今後もっと勉強し、自信をもって仕事ができるように頑張ろうと思っています。

楽しかった行事の数々（二十五回）

行事委員

元号も改まり「平成」を迎えた中里の家の初めての行事、成人式と新年会が一月二十六日に行われました。晴れて大人の仲間入りをし、新成人となった白石和幸君・中野芳照君・堀江進君・吉村晶子さん・丸真理子さん、本当におめでとうございました。男らしいスーツ姿や素敵なきもの姿、みんなとっても輝いていましたね。

一月二十一日は小塚大師の初大師参拝でした。みんな一人ずつお賽銭を投げて、何をお願いしたのでしょうね。お参りがすめば、後は縁日の屋台にいちもくさん。たこ焼・鯛焼き・焼きソバ・クレープ……、口のまわりをベチョベチョにして、とっても幸せな一日でした。

二月三日は節分です。今年の年男と年女は、宇山洋一君・植村修君・真田和文君・三幣麻由子さん・森井庸江さん、そして渡辺和弘先生の六人です。今年はかわいいお多福三人と強力な鬼二匹も登場し、大いに盛り上がりました。平成元年の中里の家は、幸せ一杯間違いなしですね。

二月十日はボーリング大会。今年もせい一杯頑張りましたが、球のかわりに自分がころがった人もいましたね。和気あいあいのうちにゲームも終り、そのあとはみんなが楽しみにしていた家庭実習に入りました。

昭和六十三年度の行事も大小とりまぜて二十五を数え、残すところ苺狩りだけとなりました。それにしてもよくやりましたね。企画する側の行事部としては、一つ一つの行事に各々の思い出があり、嬉しかったこと、ちょっぴり苦しかったことが走馬灯のようにかけめぐります。

一年間無事に過ごせたのも保護者の皆さんの御協力、また行事に関係した各方面の方々の深い御理解、そして何よりも園生・職員が一体となって頑張ってきたからだと自負しています。本当にありがとうございました。来年度も、今年以上に楽しい行事を企画していきたいと思います。

保護者より

思うまゝに

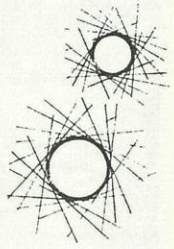
佐久間容子

立春も過ぎ、春が一歩一歩近づいている今日この頃です。晃が「中里の家」にお世話になって早一年余り、今ではすっかり慣れて毎日を楽しく過ごさせていただいております。施設長さんを始め指導員の先生方、職員の皆様方の時には父・母・兄・姉としてやさしく接して下さっている様子には、親以上と感謝の気持で一杯でございます。

五十人もの家族をかかえた「中里の家」での一日は、さぞかし大変でしょうね。自分の手で食べられて、自分の意志で排泄する事が出来、自分の考えを自由に表現出来れば、こんなに良い事はないのですが、この子は何も出来ないからと、つい親が手をかけ過ぎた事を今ではとても後悔しています。

晃は返事の「ハイ」だけははっきりと言えますが、言葉はまったく喋りません。家に帰宅した時等には、園での様子をいろいろと身ぶり手ぶりで話をしようとしますが、親の私でさえ時には分からない事もあります。園では先生方と会話はなくとも、心が通じ合っている事とは思いますが、気がかりな所です。

収穫祭には、園生の丹精した心のこもった品々を見せていただき、立派な作品にはびっくりいたしました。毎日の作業がどんな様子なのか、そっと覗いて見たいような気もいたします。これからも、まだまだお手数をかける事と思いますが、少しずつでも前進する事を期待し、少しでも中里の家のお役に立てるように親子共々頑張りたいと思います。



小谷利平

平成元年となり、早や三月が目の前にやって来ました。その中で施設長始め職員の方々の燃ゆる熱情と心あたゝまる配慮により、園生達のほのぼのした顔を見るに附け、感無量で言葉には言い表わせません。ましてや我が子が家にいる時は、門の外に出ると車の往来が激しいので小さい庭で遊ばせ、急拠家に入れてしまうのが毎日の日課でした。その為歩行力も幼児以下でしたが、「中里の家」に入園し、施設長始め職員の絶大なる御指導の宜しきを得てか、家庭実習で家に来た時など、私より歩行が達者になった所為か、朝御飯を食べ終わると自ら靴をはき、散策を強請する知恵がはぐくまれてきたのも、これ偏に皆様方の誠ある博愛と心にとめ、衷心より御礼をのべる次第です。私が今更こゝでのべる事ではありませんが、嬉しさの余り一言。今後共益々園生の御面倒を見て下さる様、心から御願いする次第です。私事の多い事ばかりにふれましたが、小原会長始め役員の方々は言うに及ばず、各保護者の方々の熱意には常に頭を下げております。

最後に施設長始め御一同様の御健康と、園生達の健やかなる成長を夢にみながら、未来に突き進んで行きたいと思います。拙ない文章で恐れいります。

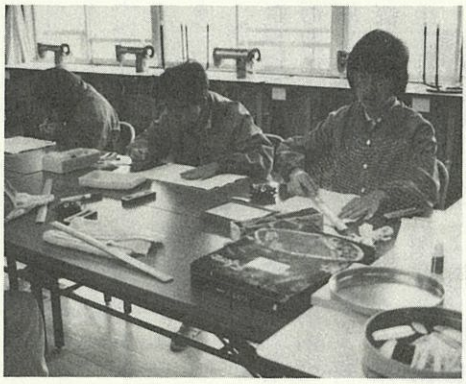
作業班紹介

「せんせい、できました」

＝縫製部＝

「せんせい、できました。」そんな言葉が飛び交う縫製部は、開所以来、丸真理子さん・坂本和代さん・真田幸子さん・富田智子さん・遠藤愛子さん・笹生清美さん・長谷川弘美さん・高梨京子さん・吉村晶子さんの九名で、この二年間がんばってきました。中里の家で最も日当たりが良く、あまりの環境の良さについつい居眠りが……。そして柄にもなく（？）大声を出してしまうことも。そんな時には「厳しく」、又時には「笑い声」の聞える明るい作業室が、私たちのお城です。

この二年間、雑巾を手始めに三角巾など、まず日常生活で自分たちが使うものから手がけ、自分たちが作ったものを自分たちで使うその喜びというものを味わいました。そして枕カバー・エプロン・バック・クッションなど、生活をより豊かにしていく作品を手がけることにより、完成の喜びへと向かってひと針ひと針心を込めて作り上げていくようになりました。布の裁断に始まって、印つけ、しつけ、ミシン掛け、仕上げのアイロンがけに至るまでの全工程をやり終え、完成させたその喜びは何物にも替え難いものであると同時に、次の新しい作品への挑戦へとつながっていると思います。



今思えば、針をさわったことも、又ミシンをさわったこともないといった園生をも含んでのスタートでした。そしてこの二年間、それぞれがよくがんばって、ずい分成長したように思います。「継続は力なり」、何かそのような言葉があてはまるように思います。「短気は損気」、これからもこの言葉を忘れずに、園生とともにお互い励ましあい、助けあっていこうと思います。これからも応援して下さい。

編集後記

春一番も過ぎ去り、暖かい毎日が続いています。

早いもので「虹」も本年度の最終号となりました。そこで今回は年度末を迎え、何かとあわただしく過ぎゆく日々の中で、職員にこの一年をふり返って語ってもらいましたが、数々の行事をはじめ、作業や余暇活動などの日常生活での思い出も、園生の心の中には深く焼きついているようです。

「中里の家」開設二年目を大過なく過ごせたことは大変喜ばしいことですが、それに甘んずることなく、幾つかの反省をふまえた上で、より充実した家づくりに努めてゆきたいものです。